

# おおぞら

第15号

・発行  
安来地区保護司会

・事務局  
安来市赤江町1545  
TEL (0854) 28-9388

題字 佐々木 實



## 子どもの目線 での仲間づくり



安来市中学校長会 会長  
安来市立広瀬中学校 校長  
成相 政明

現代は、物質的な豊かさの一方で日常生活の中で心の豊かさを実感できずにいる状況があります。携帯電話やパソコン等の普及により、自分の思いや考えを伝える手段としてメール等を使うことが多くなり、お互いに顔を合わせながら、話すことや伝えあうことが少なくなりました。そのため、人と人とのつながりや温もりのある人間関係づくりの育成、推進が強く叫ばれています。学校教育の現状を見ると、いじめや不登校などの解決・解消が引き続き重要な課題となっています。

現在のいじめや不登校等の大きな原因の一つは、少子化による子どもたちの人間関係づくりの経験不足だと思われています。子どもが多い時代には、近所の子どもたちが群れて遊んでいました。その集団の中には様々な人間関係があり、仲間に入れて遊んでもらうための仲間づくりのやり方などを自然に身につけてきたように思います。ところが、今は群れて集団で遊んでいる子どもたちを見ることはほとんどありません。テレビやゲームなどの一人での遊びが多くなり、人間関係づくりの経験は乏しくなりました。そこで、仲間づくりの経験不足を改善するために学校や地域が一緒になって意図的に人間関係づくりのための取組が、多くの皆さんの多大なる努力によって、各地域で意欲的に行われています。これは、とてもいいことだと考えておりますし、活動に取り組んでおられる多くの皆さんに感謝しております。ただ、どうしても大人主導での取組、大人から子どもに伝える形の取組が多いように感じています。以前の遊びは自分たちで考え、工夫しながら、失敗しながらも楽しんでいました。そのように子どもたちが自分たちで工夫したり、失敗することもある「子ども目線」での学校や地域が一緒になった取組をさらに積極的に進めていきたいと考えています。

【学校訪問】

# 耐性を培う

## 一中上田校長先生に聴く

会長 近藤 佳郎



十月十八日、細田保護司と共に、安来一中を訪問しました。

元の校庭に大きな機械がすわり、コンクリートの杭打ち作業が始まり、来年十一月の竣工を目指して新校舎の建設が進められているのです。

玄関をたずねると校長の上田稔枝先生が、にこやかに迎えて下さいました。

上田先生は、同伴の細田さんとママさんバレーの仲間であり懐かしい思い出話に花が咲きました。上田先生は中学時代からバレーの選手で活躍され、ママさん

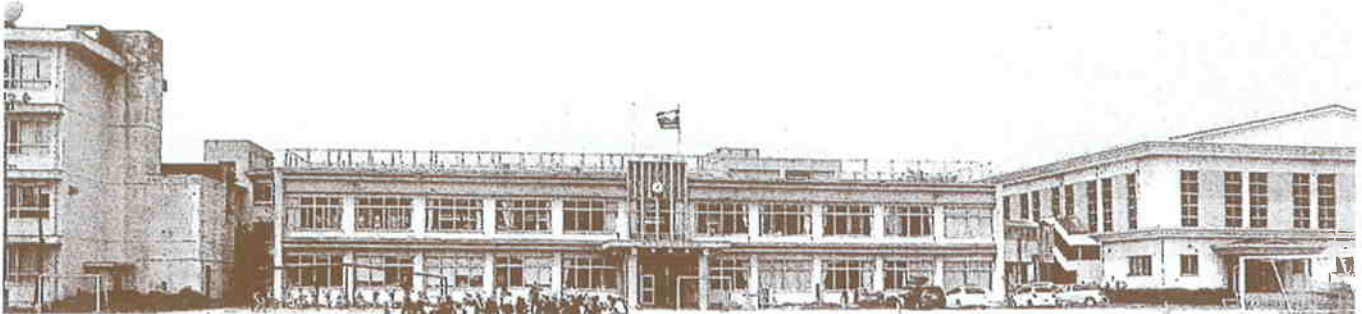


バレーでも全国大会に出場されています。すっかり打ち解けた

ところで、ざつくばらんに話して頂きました。落ちついた学校生活  
以前、中学生が荒れた時代もありましたが、今では落ちついて学校生活をおくっています。  
一中は安来市街地に近く、市内の他の中学校とは社会環境、自然環境の異なるところがあります。生徒数四七一名、教職員四一名と市内の中学校では、最多となっています。一学年四クラスですが、教室が狭く、夏はひどい暑さとなります。一年生には、クラスサポートティーチャーをおき、学習や生活がスムーズに行くようにしています。また、生徒個々の課題に対応する個別支援員もいます。さらに生徒の心身の悩み、困り事の相談には、スクールカウンセラーがいて対応するようにしています。  
私達の中学生の頃に比

べ、教科や学級担任の教員以外の先生や職員をおき、生徒一人一人への濃やかな対応ができるようになっていきます。保護者の方も、共働き、不規則勤務、単身赴任等と家庭環境にも厳しいものがあり、その事が子ども達にも影響します。このように個別支援が必要なのです。  
一人ぼっちのお母さん  
先程のことと関連しますが、一人ぼっちのお母さんが時々おられます。お母さん方は家庭でも苦勞が多く、昔のように隣近所につき合いもなく、PTAにも余り参加されない方もおられます。お母さん方のネットワークは、保育所、幼稚園から始まっています。その最初のチャンスに、仲間に入らず、そのまま小・中学校へと進んでしまうように見受けられます。そのことが、子どもにも影響しています。お母さんの友達づくり、うちとけて話し合い、相談し合える仲間づくりができるよう願っています。  
中学校は社会の縮図  
日々、生徒達の姿を見つめ、行政機関から中学校への要請や通達を見るにつけ、中学校は社会の縮図だ

と思います。義務教育最後の三年とあって、学校の教科外の指導の要請があります。税務署、年金機構、医療機関等々からありますが、忙しくてもそれに応えるよう努力しています。義務教育段階で、国民としての基本的な義務を学んで欲しいのです。  
学校では一般的な授業の外に「防犯教室」「パソコン教室」「交通安全教室」の三教室は必ず行っています。十二月には、保健所の指導で薬物乱用防止の講習をします。ネットで薬物が手に入る時代となり、それを未然に防ぎ、子ども達を守らねばなりません。  
心身共に耐性を培う  
社会に出た時、自立して生きぬいて行ける人間になつて欲しい。生徒達の姿を見ていて「大丈夫だろうか」と不安に思うことがあります。そのためには、苦しい事、つらい事に耐えぬく耐性を培わねばなりません。その力を身につけるよう生徒、教師共に頑張っています。  
話は尽きませんでした。一中のさらなる発展と生徒の皆さんの逞しい将来を念じつつ訪問を終えました。





第62回

社明大会

七月六日、安来市民会館において、「社会を明るくする運動」青少年の非行・被害防止全国強調月間」安来市推進大会が開催されました。

毎年七月に「青少年の非行・被害防止全国強調月間」とあわせて行うこの取り組みも今年で六十二回目を数えました。

本年の大会は、講師に地元安来市の加納美術館加納佳代子館長をお迎えし、ご尊父加納莞菴氏が布部村長として、自治・国際親善・世界連邦・平和・原水爆禁止・世界児童憲章制定促進を掲げた「布部村平和五宣言」を提唱されるまでの軌跡や、ご自身の教職経験等、大変実のある深いお話をいただきました。

また、例年小中学生を対象に運動の一環で行なわれている、作文コンテストの優秀作品を、広瀬中学校宇山裕乃さん、安来市立第三中学校加藤瑞子さんより、それぞれに発表いただきました大変好評をいただきました。

第六十回大会より名称に「犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ」というフレーズが加わり、地域と一体となった取り組みを推進しているところですが、大会当日は民生委員・児童委員、各地区交流センターの皆様、学校関係者をはじめ、多くの皆様にお出かけいただき、安来市における地域のチカラ強さを感じることができた大会となりました。

(実行委員会事務局)



第六十二回社会を明るくする運動作文コンテストを小中学校に募集したところ、小学校五校十三作品、中学校三校十作品の応募がありました。県推進委員会で審査の結果、小学校の部では、飯梨小学校五年の吉川拓馬さんの作品が優秀賞に、中学校の部では伯太中学校三年の丸瀬彩花さんの作品が最優秀賞に選ばれました。

小学生の部優秀作品

優秀賞 (山陰中央新報社賞)

今、僕にできること



安来市立飯梨小学校 5年

吉川 拓馬

僕は「安来レイダース」というチームでバレーボールを習っています。今年も島根県大会を予選から勝ち上がり、八月に川崎市で開催された全国大会に島根県代表として出場しました。

僕がバレーボールを始めたのは小学校一年生からで、姉がバレーボールを習っていたこともあり、そのルールや練習の内容についてよく教えてもらっていました。

初めて試合に出た時のことは今でもよくおぼえています。すごく緊張して心臓がバクバクしました。サーブを打つ時、足元のラインの確認や審判のホイッスルの音にまで注意がいかに、打つ間際になって聞こえた。

「よしっ。一本！」という先輩の声に「ハッ。」としました。もしこの時、この声がなかったら、僕は緊張のまま無意識のうちにサーブを打っていたと思います。

僕は少し自分を取りもどした感じで、いつもの練習と同じように「ハイッ。」

と大きな声を出して、一呼吸きゆうおいてからサーブを打つことができました。

僕はこの時、かけ声をもらうことのうれしさを感じると同時に、かけ声をおくることの大切さ、やさしさのようなものを強く感じました。

もし、あの場面で先輩の一言がなかったら、多分、僕は緊張と不安の中で心細い気持ちのままプレーを続けていたと思います。先輩の言葉に勇気づけられ、僕は普段通り落ち着いてサーブを打ち、サーブミスエースを決めることができたのだと思います。

その日以来、僕は試合の時だけでなく、普段の練習の時からも積極的に声を出し仲間にも伝えるようになりました。

「ナイスプレー！」

「よしっ。次行こう。」仲間がよいプレーをした時だけでなく、失敗した時にも、精一ぱいの声で気持ちを伝え、共にプレーをするようになりました。

今年の全国大会の第三試合で、山口県代表の「山口JVC」と対戦しました。試合は、第一セットからご角の大接戦になり、最終セットも二十対二十のジュースにもつれました。

そして、相手のスパイクが決まり、僕たちは追いこまれました。その時、僕は、緊張のあまり声が出なくなっていました。相手は次の一点をとるために、さらに大きな声を出してきました。その時、僕は仲間が自分の顔を不安そうに見ていることに気がつきました。「みんな緊張している。みんな声が出ないんだ。よしっ。」そう思ったしゅん間、僕は、

「さあつ。次行こう。」と大きな声を出していました。

みんなはうなずいて、少し笑顔を取りもどしたような感じで、「よしっ。次行こう。」

と言って、パンパンと手をたたきました。そのしゅん間は、とても短い時間でしたが、僕は仲間といっしょに今ここにいることがうれしくて、少し泣きたい気持ちになりました。

僕たちもスパイクを決め、また同点に追いつくと、僕にサーブが回ってきました。

「強気のサーブ。」僕は心の中でちかいました。それで、みんなが最後まであきらめないように、思いをこめて二本のサーブミスエースを連続で決めました。

「ナイスプレー！」という、仲間たちの大きな声がひびき、僕たちはみんな肩をだきあって勝利をよる喜びがありました。僕自身、試合の前よりもっと仲間のことを大切に思えるようになり、気持ちも強くなったように感じました。

僕は、仲間との交流を通して、人の気持ちを明るくしたり、自分の心が強くなったたりすることは特別な何かをするということではないように感じています。それは、自分から進んで周りの人に言葉を伝えたり、相手からやさしい気持ちをもらったりすることからまず始まるように感じています。

みんなが少しだけ勇気をもち、相手にやさしく関わろうとすれば、もっともっと明るく、やさしい社会になっていくように思います。

僕は、これからも、友達や周りの人を大切に、自分から言葉ややさしさをおくることで、自分の心をもっともっと強くしていきたいと思っています。

中学生の部優秀作品

最優秀賞第2回「社会を明るくする運動」  
鳥根県推進委員会委員長賞

人は一人ではない



安来市立伯太中学校 3年

丸瀬 彩花

私の曾祖父は、十八年前から毎日欠かさず、小学生の通学路に立ち、子どもたちの安全を見守っています。おとし、体調をくずしましたが、九十歳の今でも、体調の良いときには、笑顔で立っている曾祖父の姿を目にします。

私が母の実家へ行き、そんな曾祖父と歩く事があると、たくさんの人に声をかけられます。小さな子どもから大人まで、中には車に乗っている人まで手を上げたり、会釈をしたりするので、私はいつも驚かされます。

小さい頃私は、なぜこんなにたくさんの方が曾祖父のことを知っていて声をかけてくるのか不思議でした。ですが今なら、声をかけてくれるのは、曾祖父が見守っている子どもたちの保護者や、今はもう大人になっている昔見守っていた子どもたちなど、曾祖父が

立っていることで知り合ったつながりのおかげなんだと分かるようになりました。

雨の日でも、風の日でも変わらず子どもたちを見守り、またたくさんの人に慕われる曾祖父を見て、すごいと思う反面、なぜここまで人のために行動できるのか私は疑問に思いました。そんな疑問に答えてくれたのは祖母でした。

「おいしいちゃんはねえ、人に親切にするのが好きとか、そういう性格なのかな。例えば困っている人がいたらして、他の人がそれは自業自得なのではないかなと思うことだったとしても、おじいちゃん、助けなければってその人のために動こうとするんだよね。人に親切にするのを、生きがいとか使命感みたいに感じている部分があるんじゃない？」

私は人と関わる上で、自分よりも人の事を考えるのを難しく感じ、また友達と接するのを面倒と避けてしまうことがありました。ですが、曾祖父を見たり、祖母の話や

たりして、人は一人ではなく、曾祖父が見守る子どものように、いつのまにか支えられ、助け合い、それによって広がる輪のように、たくさんの人とつながっているのだと思うようになりました。また、曾祖父を見てみると、そのつながりはとても大切なことだと思えます。子どもたちのことを聞くとうれしそうに話す曾祖父、きつと自分が相手に関わることで、気づかぬうちに曾祖父も、その人たちの元気や笑顔に支えられているのだと思えました。

私はこれから生きてゆく中でたくさんの人に支えられ、助けられると思います。だからこそ、そのつながりを大切に、自分もたくさんの人を支え、助けることができたいと思います。

そのためには、これから私は、人と接することをためらわず、積極的に声をかけていこうと思います。そこでできたつながりはきっと私の支えとなるはずだから。

その他の入賞者は左記のとおりです。おめでとうございます。

優秀賞  
島根県更生保護女性連盟会長賞  
「奉仕活動とおして」

山陰中央新報社賞  
「あいさつについて」

安来市立広瀬中学校 一年 石田沙妃  
安来市立第三中学校 三年 福田竜也

顕彰式典で受彰

十一月二十二日に松江市総合福祉センターで平成二十四年度島根県更生保護事業関係者顕彰式典が開催され次の方々を受彰されます。

おめでとうございます。

法務大臣表彰

田中 篤美

全国保護司連盟会長表彰

仙田 芳弘  
近藤 五十子 (内助功勞)

中国地方更生保護委員会 委員長表彰

安部 良江  
松江保護観察所長表彰

今井 昭紀  
岩崎 美枝子

遠藤 史則  
山崎 光恵

矢田 博美  
安達 紘二

島根県保護司会連合会 会長表彰

佐瀬 宏洋  
原 玉子

せせらぎ  
今思う事

岩崎美枝子

昔、山中鹿介が、「我に七難八苦を与えたまえ」という、現在では考えられない事を言っておられる。人々は何もないように毎日を送っているように見える。言うと言わないとの違いで、色々な事がかかえて生きていくと思う。

とてもではないが鹿介の生き方を望むなんて考えられない。自分も六十二年生きてきて、大変な経験をしました。考えてみればそれがあったから、人の事を思

うやさしさが出来たと思う。つらい時によく人は、なぐさめる気持ちからか、「まだあなたはいい方よ。大変な人は沢山いるよ。」と。しかし、苦しみ悲しみの物さしはないと思う。むしろそんな時は話を聞き、背中でもなでてあげる位がいいと思う。

自分はそうしてやって行くと思う。その時の感情で罪を犯す人。いつ、誰が被害にあうのかわからない。我が身は自分で守らなくてはならない。だからよけいに家族の絆、隣近所との絆が大切だとつくづく思うこの頃です。



更文だより

### 島根県中央児童

### 相談所を訪ねて

細田美佐子

十月二十二日、安来地区更生保護女性会三十四人で松江市の児童相談所に行きました。少し高台に児童相談所がありました。

館内を拝見できなかったのですが、小さい子ども達が遊べる部屋、多目的部屋、体育館、グラウンド他と色々設備がある事をお話して下さいました。

私達は、山崎俊行先生に児童虐待問題について話を聞きました。昨今テレビ、新聞で虐待のニュースをよく目に耳にし、ニュースを聞く度に心を痛めていたのですが、話を聞いて、虐待により年間五十人以上の児童の死亡があり、それも親による殺害が一週間に一人の割合と聞いた時は、びっくりしました。

虐待も年々増加して、四〇%以上が〇歳児、生まれてすぐに殺すケースも多くあるそうです。〇〜五歳児が約九〇%、身体的虐待が約七〇%、ネグレクト(食事を与えない、長時間の放置、同居人の虐待)が二五%、この他に性的虐待などがありま



の罪があるのでしょうか。大好きなお父さん、大好きなお母さんと、楽しい事、苦しい事を乗り越えて生きていきたいでしょうに。虐待がなくなる

す。虐待の五〇%以上が実母、実父一七%。この実態が現実なのですが、大事な命を授かり、大変な思いをしてお産をして来たのにどうして虐待が多いのでしょうか？虐待は養育の問題でありそれが起る時には、いつも四つの条件が揃っているそうです。

(一)親自体が生育歴の中で愛されてこなかったこと。  
(二)現在の生活にストレスが累積していて危機に陥っている。そういう状態なのに  
(三)援助者がいなくて社会的に孤立していること。そして自分の子どもの中では(四)親にとって満足出来ない子ども。

これら子ども達が対象になってくると、こうして虐待で苦しんでいる子どもへ、西澤哲先生(大阪大学助教授)のメッセージに「あなたが悪いのではない。お父さんやお母さんが苦しんでいて、その結果、間違つてあなたに暴力をふるってしまったのだ。お父さんやお母さんに助けが必要なんだ。」産まれて来た子どもに、なん

### 保護司活動をふりかえって

(退任にあたり)



田中市子

私が保護司に任命されたのは今から十六年前の安来警察署を退職した直後のことでした。それまで少年事件を中心に仕事をしていましたから保護司の皆様とは顔見知りでしたのでスムーズに会にとけこむことができました。

るかどうかも危ぶまれ、警察署の応援もお願いし、私も保護者にまじって出席したこともありました。それは何故かといえはその中心人物となっていたのが私の対象者であったからです。無事に卒業式が終了した時には先生方と共に胸をなでおろしました。

また、授業中における一部の生徒の態度があまりにもひどく学校開放をして保護者にも現状をみて協力してほしい旨の通達があったので私も授業参観に二回参加したことがあります。

私もさまざまなケースを担当しましたが、その中で保護司として一番難しいと感じたことがあります。

中学生当時よりアルコールが大好きで学校の登下校中に自動販売機から買って飲んでいたようです。

学校を卒業し、社会人となつてからは就職は何とかできたものの飲酒にのめりこむことが再三みられるようになり、あぐくの果てには家庭内暴力、「死ぬ」といってはカッターで自分の

左腕を何度も切る行為に走り、いつも左腕には切傷が生々しく残っていました。私も身の危険を感じるほどになつていたので何度も助言指導はしましたが聞く耳をもたず立ち直ることができませんでした。担当した当初は家庭内には三世代同居家族の一般的な家庭でどうしてこのような事が起きるのか理解に苦しみました。しかし、どのケースにも感じるのですがそれぞれに生育歴、親子関係、交友関係、社会とのつながり等の生育過程の中で問題点があり、幼少期からの子ども育て方の難しさを思い知らされました。

この件を担当する中で私は早く更生してほしいとの一念でしたがそれと反してどんどん難しい方向に走るようになり、この機にいたり今後も私が担当しているのは不適切ではないかと自分の力量の限界に気づきました。そこで保護観察官と話し合いベテランの先輩保護司さんと交替させてもらいました。これから保護司として活躍される皆様にとこのような例もあったと参考のために書き記しました。安来地区保護司会のご活躍を期待しています。

# 第十二回「どじよつこ」カップ大会

この大会は平成十三年度から青少年の親善と健全育成を図る目的で安来地区保護司会が「社明」運動の一環として共催しています。今年も安来市周辺のスポーツ少年団がたくさん集まり熱戦が展開されました。

## ○野球大会

九月十五日にあらエッサスタジアムで開会式が行われました。野坂啓二大会長のあいさつ、近藤佳郎保護司会長の激励のあいさつの後、三十二チームが八会場に分かれて試合を行いました。十六日の決勝戦の結果、優勝は、島田ビクトリーズと津田体協学童野球クラブ、準優勝は、赤江ファイターズと弓ヶ浜スポーツ少年団、三位は、八郷少年野球クラブと多岐ブレイブホークスでカップとメダルが授与されました。



## ○バレーボール大会

十月十四日に安来市民体育館で開会式の後、二十チームが二会場に分かれて熱戦を展開しました。その結果、優勝は、横井スポーツ少年団。準優勝は、大庭JVC。第三位は、宇賀荘ラビッツとしまねマリンWISHでした。



## ○剣道大会

十二月十六日に安来市民体育館で開催の予定です。



二十三年十二月の大会にて、安来少年剣士会会員による型の披露

## 安来地区保護司会役員名簿

(平成24年11月1日現在)

会長	近藤 佳郎 (広瀬)
副会長	長妻 久良 (伯太)
常任理事	田中 壽美夫 (安来)
理事	村社 征利 (安来)
理事	仙田 芳弘 (広瀬)
理事	秋間 近夫 (伯太)
理事	岩崎 哲久 (安来)
理事	榎野 光範 (安来)
理事	小村 修司 (安来)
理事	福田 瑞枝 (安来)
理事	矢田 博美 (安来)
理事	田口 君枝 (安来)

## 保護司の異動

退任保護司	高橋 信義 (安来)
平成23年11月31日	岩田 耕 (広瀬)
平成24年5月31日	田中 市子 (安来)
新任保護司	藤原 常義 (安来)
平成23年12月1日	安達 紀雄 (伯太)
平成24年6月1日	細田美佐子 (安来)
	少林 浩道 (広瀬)

## 図書券料を贈呈しました

毎年、中学校へ、読書によって健全育成がはかられるよう図書券料を贈呈していますが、今年は、広瀬中学校と伯太中学校へ訪問し贈呈しました。



## 部会名簿

(平成24年11月1日現在)

総務部会	近藤 佳郎	長妻 久良
	田中 壽美夫	村社 征利
	榎野 光範	福田 瑞枝
	小村 修司	
研修部会	秋間 近夫	田中 篤美
	仙田 芳弘	岩崎 哲久
	少林 浩道	原 玉子
	小池 清水	米原 邦夫
	安達 紀雄	
犯罪予防部会	池上 幸秀	藤原 常義
	上田 眞實	細田美佐子
	田口 君枝	安部 良江
	岩崎美枝子	山崎 光恵
	今井 昭紀	
協力組織部会	岩田 拓郎	遠藤 史則
	安達 紘二	佐瀬 宏洋
	矢田 博美	岩田 京子
	山崎 武道	倉本 洋子

## 編集後記

暦の上では立冬を迎え、日中でも肌寒さを感じる時節になりました。青い抜けるような大空に、赤や黄に色付きはじめた山々がやわらかな陽射しによく映えています。一年の役割を終えた葉っぱも枝から離れ、落葉樹も冬支度をはしめます。安来地区保護司会も、一年の事業や研修会も大概終え、この「おおぞら」の紙面上にも、様々な色あいの報告記事が掲載されました。ご寄稿下さいました皆様に心からお礼申し上げます。今後共、保護司会活動にご協力の程、お願い致します。(編集子)